

佐賀市 47 歴史探訪

く ぼ い ず み ま る や ま い せ き

久保泉丸山遺跡のタイムカプセル

金立公園の一角に、久保泉丸山遺跡が移築復元されているのをご存じの方は多いと思います。この遺跡は、長崎自動車道建設に伴い昭和51・52年に発掘調査が行われました。縄文時代晩期～弥生時代前期の支石墓群をはじめ、紀元5～6世紀の古墳群が小さな台地上にまとまって存在している複合遺跡で、学術上きわめて価値の高い内容をもつものでした。

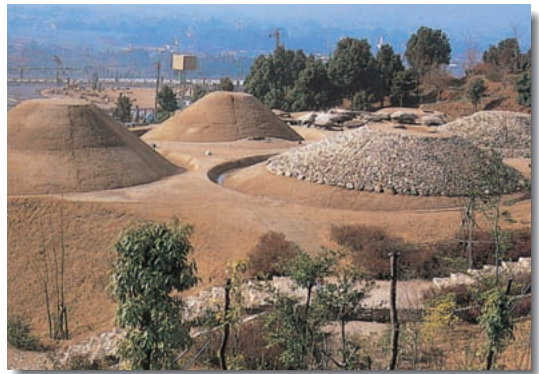
古墳群中の3号墳は径13.8mの円墳で、内部に1基の舟形石棺が埋置されていました。舟形石棺の名は身の形が舟に似ていることから付けられたもので、舟葬と結びつけて考える説があります。全長232cm、蓋は屋根の形をしていて、両端部に縄を掛けるための突起が造り出され、石材には佐賀平野にはない阿蘇溶結凝灰岩が使われていました。

現地に設置してある石棺は複製品で、熊本県玉名郡南関町の石切場から採取した阿蘇溶結凝灰岩が使用されています。大型のカッターなどで切り出した後、最終的に石工の手によって削り出されました。工具は当時の製作技術に近づけるため、大正・昭和初期に使用されていたノミや手斧などが用いられました。そうして復元された石棺の中には、県内の人々や事業関係者から募集した記念品が納められ、タイムカプセルとして利用されています。

こうした舟形石棺は佐賀平野では数が少なく、ほかに市内の熊本山古墳が知られている程度です。丸山遺跡と同形式の舟形石棺は、熊本県菊池川下流域と福岡県大牟田市周辺に集中して分布しており、当時の佐賀平野と筑後南部・肥後北部との関わりを示す資料として大変貴重なものです。

※舟葬…古くから海洋民族には、舟に遺骸を納めて葬る風習があり、古墳時代の日本にも舟形の棺を用いていることから、舟葬儀礼があったという説があります。

※阿蘇溶結凝灰岩…鼠色の加工しやすい岩石で、阿蘇山を中心に熊本県、大分県、福岡県南部などに広く分布しています。



▲移築復元された丸山遺跡



▲3号墳舟形石棺



一口メモ

舟形石棺の実物は、佐賀県立博物館(佐賀市城内一丁目)に展示してあります。ぜひ一度ご覧ください。